

授業科目名： 発達障害の判定と その教育的対応Ⅰ	教員の免許状取得のため の選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：西永 堅 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>本科目は、特別支援教育に関する科目であるが、障害のあるなしにかかわらず、一人ひとりの発達は同じではないことを前提としており、その個人差の測定を学修する科目である。他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の3つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけるための科目である。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) LD等発達障害の定義について説明できる。</p> <p>(2) LD等発達障害の判定のためのアセスメントはどのように行うのか、その具体的方法を説明できる。</p> <p>(3) LDとADHD、自閉スペクトラム症、知的障害等との関係について説明できる。</p> <p>(4) LD等発達障害への教育的対応の具体的方法を説明できる。</p> <p>特別支援教育の発展に伴い、新たにその対象に加えられるようになった「学習障害(LD)」を中心に、判定方法とその教育的対応の具体的方策を学習することを目的とする。</p> <p>学習障害(LD)とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」等の学力の習得と使用に著しい困難を有する者を指し、文部科学省の調査によれば、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症等と合わせると学齢児の6%以上存在することが明らかになっている。</p> <p>これらの子どもの適切な教育のためには、その判定の方法が確立していなければならない、またその判定技能を身に付けることが必要である。</p> <p>学力に遅れが見られる児童生徒について、特に算数・数学、国語の学力を精査し、LDの疑いがあれば、医学的な検査を専門医に依頼するとともに、各種の心理検査を実施し、その結果に基づいて適切な教育的対応を行う必要がある。</p> <p>本講は、一般的発達検査、知能検査、社会生活能力検査とともに、WISC-Ⅳ、K-ABCⅡ等LD等の判定に必要な心理検査の実技を身に付けるとともに、その教育的対応について学ぶことを目的・ねらいとするものである。</p>			

授業の概要

各発達障害の定義について学ぶ。また、それらの障害を判定するためのアセスメント方法を、実際に学修していく。本授業はスクーリングのみの授業である。なお、発達障害の判定とその教育的対応はスクーリングのみの科目であるが、(Ⅰ)と(Ⅱ)に分かれており、(Ⅰ)では、学習障害の定義とその教育的対応、心理検査の歴史と、心理検査の方法を学ぶ。(Ⅱ)では、(Ⅰ)で学んだことを参考に、実際に心理検査の実習的学修を行い、その結果のまとめ方について学ぶ。(Ⅰ)と(Ⅱ)を連続して受講することを望む。

授業計画

- 第1回：特別支援教育のあり方
 - 第2回：特別支援教育の制度
 - 第3回：インクルージョン教育について
 - 第4回：特別支援教育とインクルージョン教育の違い
 - 第5回：発達障害とは
 - 第6回：LDの定義
 - 第7回：LDがある子どもへの指導法
 - 第8回：ADHDの定義
 - 第9回：ADHDがある子どもへの指導法
 - 第10回：自閉症スペクトラム障害の定義
 - 第11回：自閉症スペクトラムである子どもへの指導法
 - 第12回：知的障害の定義
 - 第13回：知的障害がある子どもへの指導法
 - 第14回：心理検査・知能検査の歴史、心理アセスメントとは
 - 第15回：学習指導案の作成と模擬授業
- 定期試験

スクーリングでの学修内容

全てスクーリングで行う科目なので第1回～第15回を全てスクーリングで行う。

教科書

- (1) 安住 ゆう子 編著 (2019) 『改定新版子どもの発達が気になるときに読む 心理検査入門：特性にあわせた支援のために』 合同出版
- (2) 文部科学省(平成29年) 『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』 海文堂出版
- (3) 本講義で配布する資料

参考文献

- (1) 『親と教師のためのLD相談室』 中央法規
- (2) 『学習障害・学習困難の判定と支援教育』 文教資料協会

学生に対する評価

スクーリング評価(50%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。